

校内研修計画

(1) 研修の目的

- ① 学校教育目標の具現化のために、学園生の実態に即し、創意工夫を生かした特色ある教育活動の展開を推進する。
- ② 専門職としての自覚に立ち、研修を通じて、教師としての資質・指導力の向上を図り、学園生の生きる力を育む。

(2) 研究の方針

- ① 全職員の共通理解の下、研究主題に迫るため、学園全体制で授業研究及び日々の授業実践を中心に研究を推進する。
- ② 研究内容は、「わかる・できる」授業の展開を模索し、授業改善を図る。
- ③ 部会相互の連携を密にし、研究の効率化・円滑化を図る。
- ④ 研究実践を積み上げていく中で、学園生の変容や成果を的確にとらえ、その成果を評価しながら研究を推進する。
- ⑤ 情報収集につとめ、各指導機関からの指導・助言を受けるとともに、地域・保護者との連携を図りながら、研究を推進する。

(3) 本年度研究主題

「わかる・できる」協働的な授業の創造

(4) 主題設定の理由

① 本村の取組から

本村では、「We have a dream (私たちには夢がある)」という校訓の下、「産山で教育を受けてよかった」と実感できる教育をめざして小中一貫教育を進めてきた。これまで、生涯学習社会を展望した学社融合の取組や、ヒゴタイ交流に代表される国際理解教育などに力を入れて取り組んできた。特に、平成16年度からは、学園生を「じっくり」「しっかり」「のびのび」育てるという視点をもって二学期制を導入し、平成19年度に教育特区の認定、さらに、平成21年度からは文部科学省より教育課程特例校の承認を得て、教育改革を行ってきた。その中で、「ローカルオプティマム(=本村の学園生に適した教育内容について検討を重ね、最もふさわしい教育効果をあげることをめざす)」のキーワードの下、本村の学園生に適した教育内容について検討を重ね、本村独自の教育課程を編成し、特色ある教育内容に取り組んできた。そして、これらの取組の一つの完成形として、平成30年4月に義務教育学校産山学園がスタートした。しかしながら、毎日の学習が基盤としてしっかりと確立されていなければ、それらの効果の高まりにも限界がある。学園全体で、「うぶやま型学習」を展開し、学習者主体の学びづくりにつとめている。

② 産山学園生の課題

全体的に主体性・創造性に欠ける面がある。学園生の人数に対して、学校では教職員、地域や家庭でも大人の人数が多く、先回りして手を差し出したり、言われたことに反応しておけば良いという「依存」が感じられる。また、自分の考えをうまく伝えられない学園生が多い。これは、授業中はもちろん、特別活動(行事・委員会活動等)、家庭学習、部活動など、全般的に言える。

そこで、学校教育目標に近づくために、各ステージ毎に、「主体性・創造性」を身に付けた学園生の具体的な姿を設定した。学園生とともに共通理解を図り、めざす姿に向かって、まずは授業づくりを見直し、授業で身に付けたものが、他の学習や生活の場面で活用できることを期待したい。

③ 「わかる・できる」協働的な学びとは

学園生が自分たちで課題解決に向け協働的に学習し、達成感・充実感をもつ姿である。そのために、様々な形態での子どもが主体となった学習活動の時間を増やす。「体験」「話し合い」「学び合い」など、各学年、各教科の特性を活かし、学園生が自分たちから「やってみたい」「解いてみたい」「話し合ってみよう」と思うような学習を取り入れ、深い学びへとつなげていく。

④ 義務教育学校の特性を効果的に進める取組について

昨年度の研究テーマを継続しながら、「ステージ制度」を活かし、9年間の学びの連続性を意識した取組を職員の共通理解と共通実践により効果的に進め、学園生の学力向上を図っていきたい。

※ステージ制度：ファーストステージ1～4年／セカンドステージ5～7年／サードステージ8～9年

(5) 「うぶやま型学習」について

「うぶやま型学習」とは、小中一貫教育における9年間を通して、「確かな学力」を育てる学習過程である。そのねらいは以下のとおりである。

- ① 学園生の主体的な学習を促すために課題解決学習を取り入れ、自ら学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れる。
- ② 思考力・判断力・表現力等を養うために、考えを練り上げるための個人思考の場や小集団思考の場を設ける。
- ③ 思考の流れに沿った到達基準を設けて形成的評価を行うことで、成就感・達成感を持たせるとともに、知識・技能の定着や、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

うぶやま型学習		
過程	学園生の視点から	授業者の視点から
① のく 課 ん 題 今 は 日 ?	◎学習課題（めあて）をつかむ。 ・学習課題（めあて）を確かめて、やる気を出し、学習の見通しを立てる。	◎目標の明確化 ・学習意欲と見通しを持たせるための徹底指導 ※授業前（目標分析・指導計画・実態把握）
② う っ ひ か と っ り て み よ	◎ひとり学び（個人思考）で課題解決に取り組み、自分の考えを持つ。 ・学習課題についてしっかりと考え、それを書くなどして自分の考えを持つ。	◎ひとり学び（個人思考）の時間の確保 ・「読む」「書く」などを位置付けた言語活動の工夫。 ・評価活動（ステップなど）とそれを生かした個別指導。
③ み ろ ん う な で !	◎学び合って、学習課題（めあて）を解決する。 ・友達と話し合い、さらに考え、学習を深める。 ・先生の話をしっかり聞き、問題を解いたり深まった考えを書いたりしてまとめ、学習課題を解決する。	◎個人思考から小集団・集団思考への相互啓発 ・「話す」「聞く」などを位置付けた言語活動の工夫 ◎課題解決のための徹底指導 ・学習内容の整理 ・評価活動とそれを生かした個別指導
④ 返 と ろ め う 振 り	◎学習を振り返り、つなげる。 ・自分や友達のがんばりを振り返り、その良さを認め、次時につなげる。 ・学習したことを振り返る。	◎達成感を味わわせる自己評価の工夫 ・自己評価カード等の作成・活用 ・次時の予告と意欲付け

(6) 研究の仮説

単元・授業のゴールの姿を明確にし、学び合い、高め合う学習活動を工夫すれば、「わかる・できる」授業になるだろう。

① 単元・授業のゴールの姿を明確にするとは

ゴールの姿を明確にすることは、授業づくりにとって必要なことである。ゴールを明確にすることで、ゴールに迫る単元を通じた学習課題が設定され、ゴールの姿を実現するための学習活動も明確になってくる。子どもが主体的に見

通しをもって学習に取り組み、学習したことをふり返って達成感を感得し、自分自身の学びの変容を自覚し、さらには次につなげる創造的な学びが確立できると考える。

そのための工夫として

- ・単元のゴールの姿、1時間の授業のゴールの姿を明確にし、子どもと共有した授業づくり
- ・授業の最後に、学習したことをふり返り、「できた・わかった」という達成感をもたせる授業づくり
- ・単元最後に、「自分は次は何を学びたいのか」と主体性につながる、未来向きのふり返りを行う。

② 学び合い、高め合う学習活動とは

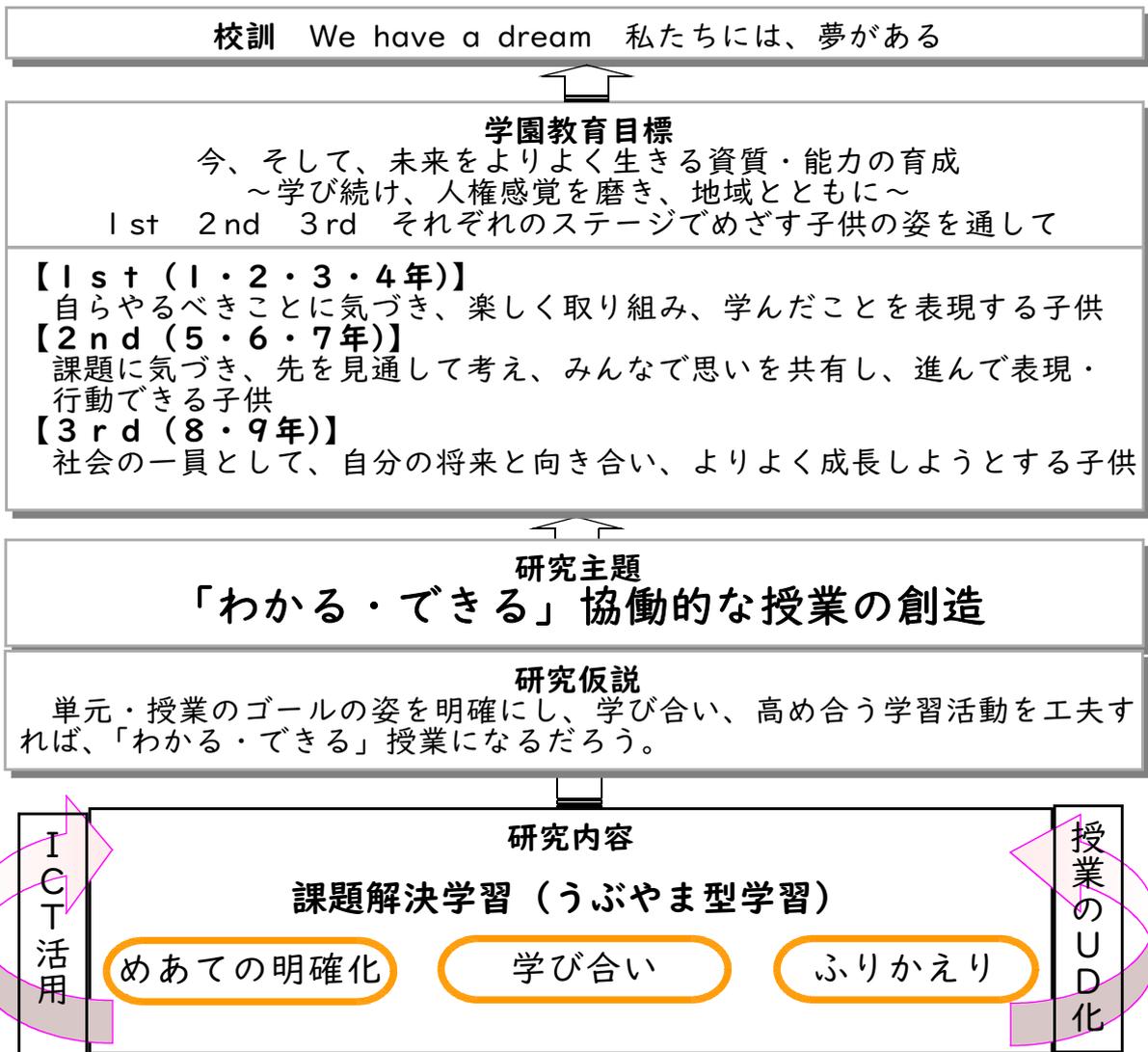
課題に向かって、お互いに学び合いことは、協働性が身に付くと考える。そのためには何を話し合うのか、視点を明確にしたり、お互いの思いや考えを尊重しながら、聞いたり受け止めたりすることが大切であると考えます。

そのために

- ・考える手立てとして、思考ツールを活用する。
- ・ペア、グループ、全体など、学習形態を工夫する。
- ・根拠を明確にし、自分の言葉で伝え、相手の考えを理解する。

また、「ICTの効果的な活用」、「授業のUD化（視覚化・焦点化・共有化）」で、授業を支える。

(7) 研究構想図



(8) 研究組織

○研究授業は「ステージ部」で行う。

ステージ	メンバー
ファースト	宗・中村・前川・久野・井さ・内田・仁田水・首藤・今村副校長
セカンド	原田・井た・富永・真田・赤星・江藤・東・藤田・田端・市原教頭
サード	市原靖・古庄・石井・山部・中村さ・井上・佐藤・有働教頭

○以下の部会で研修・研究をすすめる。

ステージ	授業改善部	実態把握部	広報部
	主：中村み	主：東	主：古庄
ファースト	宗・前川	内田・仁田水	久野・井さ
セカンド	井た・富永・真田	江藤	赤星・藤田・原田
サード	山部・市原靖・首藤	石井・松本	中村さ・井上

(9) 計画

期日		研修内容	職員	学園生	備考
4月	10日	産山村教育研究会半日研修会			
	15日	本年度の研究テーマについて ワークショップ	ワークショップ		
	22日	1 本年度の研究テーマについて 2 △年間計画（研究授業等）			
5月	13日	部会研修			
	20日	テーマ研 ワークショップ	ワークショップ		
	27日	職員会議（人権教育）			
6月	3日	保健・給食関係 年間計画（授業者決めなど）	授業者決定		産山村主催人権同和教育研修（人権に関する学習会）一延期（期日未定）
	10日	共通実践事項の確認	アンケート		
	17日	水害避難訓練・職員会議（反省会）			
	24日	部会研修			
7月	1日	人権教育 研究授業大研1・事前研（8年「社会」古庄）	学習構想案検討		
	8日	研究授業大研1・授業研究会（8年「社会」古庄） 講師招聘（太田先生）	役割分担	アンケート	
	15日	職員会議			
	22日	部会研修			
	29日	部会研修・その他			
8月	5日	予備日			8月2日（日）都市人権同和教育研究大会（産山）→中止
	19日	職員会議（体育祭）			
	26日	人権教育（人権レポート研→子どもを語る会）			
9月	2日	研究授業大研2 事前研（4年「うぶやま学」宗）	学習構想案検討	アンケート	9月23日（水）国立教育政策研究所 来校
	9日	体育祭振替休日			
	16日	内容検討 講師招聘（高谷先生）			
	23日	検討中			
	30日	情報教育（教科におけるプログラミング）			
10月	7日	研究授業大研2 授業研究会（4年「うぶやま学」宗） 校内研修派遣事業（島田指導主事）	役割分担		研究紀要準備 10月16日（金）経営訪問
	14日	人権教育（人権文集「うぶやま」読み合わせ）	作文準備		
	21日	職員会議			
	28日	村人権同和教育授業研 事前研（6年「道徳」富永）	学習構想案検討		
11月	4日	研究発表大会 事前研（2年「うぶやま学」前川）（5年「英会話」井）（9年「うぶやま学」山部）	学習構想案検討		研究紀要仕上げ
	11日	発表準備（研究紀要・資料）	準備		
	20日	村人権同和教育授業研（6年「道徳」富永）	役割分担		
12月	25日	職員会議【人権教育（人権文集「うぶやま」読み合わせ）】	作文準備・修正		12月4日（金）八巻地研研究発表大会
	2日	研究発表リハーサル	役割分担	アンケート	
	4日	研究発表大会（検討中）	役割分担		
	9日	職員会議			
	16日	前半：研究テーマ研（教育論文） 後半：性教育			
1月	23日	自主研（論文作成）	論文作成		
	7日	人権レポート研	人権レポート		
	8日	教育論文（修正など）	論文作成・修正		
	13日	代表 人権レポート研（検討）	人権レポート		
	20日	職員会議			
2月	27日	産山村主催人権同和研修（実践レポート報告会）	役割分担		
	3日	部会研修	ふり返り	アンケート	
	10日	職員会議（9年生認定会）			
	17日	来年度に向けて			
3月	24日	専門研修＜特別支援・道徳等＞			
	4日	年間総括＜研究テーマ研・専門研修＞			
	10日	職員会議（1～8年生認定会）			